

令和5年度 廿日市市立地御前小学校 学校評価自己評価表 (中間)

学校教育目標 『自ら学び解決していく力を身に付ける児童の育成』
目指す児童像 ○元気に通う子 ○自分の言葉で進んで表現し友達とともに高まる子
目指す学校像 ○地域とともに歩む学校 ○人やものに感謝する心が育つ学校
目指す教職員像 ○誠実で信頼される教職員 ○協働して職務を果たす教職員

評価	
A：目標達成（目標値＋4%以上）	B：ほぼ達成（目標値±3%）
C：もう少し（－4%～9%）	D：できていない（－10%以上）

評価計画

中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	担当	結果	評価(中間)	今後に向けて
確かな学力の定着 主体的な学びの推進	主体的に課題に取り組み、自己調整しながら学習する児童の育成 (市共通項目)	○協働的な学びの推進 ・考えを深めるための練り上げ構想 ・相手意識をもって説明するためのノートやタブレット端末の活用	・学期末テストにおいて、「思考・判断・表現」65%の児童の割合	80%	教務・研究	・算数科学期末テスト「思考・判断・表現」65%以上の児童は78%で目標値達成に至らなかった。	C	・1学期に学年ブロックで単元構想シートを作成し、活用するための準備を進めたが、2学期以降、校内授業提案、中学校区公開研究会等でそれらを活用した授業を実施する。 ・6月にICT指導員によるICT活用の講座を受講し、研修した内容を授業において実践中である。今後も継続していく。 ・全国学力・学習状況調査の結果を分析し、条件に適合させたり、論理的に答えたりする記述問題に課題があると再認識した。各学年で授業や家庭学習の内容を再検討し、記述解答のポイントをおさえていく。
		◎個別最適な学びの推進 (中学校区共通項目) ・児童自身が進められる学習計画書の活用 ・自己調整につながる振り返り ・個別課題に取り組めるタブレット端末の活用	・個別最適な学びに取り組める単元を各学期1回以上実施した学級の割合	100%		・先行研究をもとにした研修 ・学年団での協同実施 ・ブロック研修や自主的な授業公開 上記の取組により、個別最適な学びを意識した授業を100%の学級で実施することができた。		B
豊かな心の育成	相互評価や自己の振り返りにより自己有用感を高める児童の育成	○挨拶の定着 ・学級指導、学級活動、児童会活動における挨拶への取組実施	・児童アンケート「自分から進んで挨拶ができた」児童の割合	85%	生徒指導	・学級指導による挨拶の意義の浸透 ・運営委員会（児童会活動）による朝の挨拶運動 ・全学年に挨拶運動への参加の呼びかけ 上記の取組により、児童アンケートで87.7%の児童が「自分から進んで挨拶ができた」と答えた。	B	・朝の挨拶運動の充実を図る。挨拶強化週間の取組は、ペア学年での取組とする。より参加しやすいように上学年が下学年に声を掛けに行ったり、運営委員会による放送をしたりして、参加を奨励する。
		○自己有用感の向上 ・各教科、特別活動、総合的な学習の時間、掃除等における学年交流の推進	・児童アンケート「ペア学年・異学年交流により自分のよさを感じた」児童の割合	85%		・運動会をペア学年で行い、手紙交換で振り返りを実施。 ・ペア学年で掃除を行い、終了後に合同で挨拶を行ったり良さを見つけたりする。 上記の取組により、児童アンケートで86.9%の児童が「ペア学年・異学年交流により自分のよさを感じた」と答えた。		B
健やかな体の育成	各種運動の基礎となる走力の向上	○体育科授業の工夫改善 ・サーキットトレーニングの位置づけ ・「走の運動遊び」を取り入れた授業改善 ・「走り方教室」の実施（3～6年）	・年度当初に計測した50m走の記録を上回る児童の割合  ・サーキットトレーニングを体育の全授業で50%以上実施したクラスの割合	70% 100%	保健体育	・1学期後半は、暑さ指数が高い日が続いたため、50m走の記録を計測しなかった。 ・サーキットトレーニングを50%以上実施したクラスの割合は67%だった。 運動委員会が朝会でサーキットトレーニングを紹介してから、ほとんどのクラスで実施するようになっている。	D	・気候を考慮しながら、50m走の記録を計測する。 ・走の運動遊びを運動委員会を中心に全校に紹介し、各学級の体育科の授業等で取り組んでいく。サーキットトレーニングについても継続して取組を進める。 ・「走り方教室」を11月に実施予定である。